

- ① 産学協同教育の一環として、ハウステンボス株式会社様より、平成 25 年 11 月 23 日～12 月 25 日のクリスマス時期に【企業プロジェクト】の依頼を頂きました。
- ② ハウステンボス株式会社様は、斬新なアイデアでお客様を魅了し年間 230 万人が来場され、多彩な施設が点在しアジア各地からも来場されるようなテーマパークです。
- ③ ハウステンボス様はこの時期に光の王国というイルミネーションを売りにしたイベントを開催されており、この期間中の全体来客目標は 15 万人とお聞きしました。夕方からの来園は多いのですが昼間の集客が弱いことから、子供やファミリー層をターゲットとした話題性のあるものを作ってもらいたいとの要望がありました。そこで子供に人気のあるマスコットキャラクターのちゅーりーちゃんを取り入れた、人が入れる大きさのお菓子の家を、現地制作期間 2 日間で作って欲しいと依頼をいただきました。
- ④ まず、作戦会議をして展示期間に合わせたクリスマスをモチーフに、マカロンのツリーやパン細工でできたリース、クッキーの暖炉などを作りお菓子の家に入った際に、来園の記念として思い出に残る、写真撮影場所も作ることにしました。
- ⑤ 依頼を頂いてから完成まで 1 ヶ月しかなかったので、出来上がりをイメージする為にまずは、ミニチュア版を作り、マスコットキャラクターのちゅーりーちゃんはインパクトを出す為に屋根に大きく取り入れることにしました。
- ⑥ イメージを共有する為に設計図をつくり、使用材料が 600 キロ、パーツの総数約 7500 枚の制作をおこないました。
- ⑦ お菓子の家を作るときに、食べられないものと考えていましたが、お客様に本当に喜んでもらうためには実際に食べてられる部分が必要じゃないかと考え急遽、建物内部の設計を見直して食べられるお菓子を作ることにしました。
- ⑧ いよいよ、ハウステンボスに向けて出発です。
- ⑨ 到着して、ベニヤで出来た家を見たのですが思っていたよりも大きく 2 日間とう期間で出来上がるか不安になりました。そこで、自分達の持ち場も再度確認し作業に取り掛かりましたが、すぐに問題が発生しました。バスで 2 時間半、約 100 キロの距離を移動したので、箱を開けた際に焼菓子の破損が多く各パーツが足りなくなりました。
- ⑩ 始めに外壁に取り掛かりました。お客様に 1 番目に付く場所ですし、またパーツの破損

が多いのも、この部分でしたので、早目に作業をして焼き直す枚数を確認する必要がありました。

- ⑪ 2番目に屋根に取り掛かりましたが、2000枚のクッキーを使用しマスコットキャラクターを描くので、色・全体的なバランスが難しく作業が順調には進みませんでした。
- ⑫ 一日目は予定していたところまで作業が進まず、学校に戻り反省会を行いました。破損が多かった事に対しては、クッション剤を入れパーツを守ることにしました。屋根の部分は2階から指示を出し、まだ手をつけていない内装は作業分担を明確にして2日目の作業に臨みました。
- ⑬ 前回の反省を活かし、パーツの破損もなく作業が順調に進みました。内装は、記念撮影スポットを意識して可愛らしく飾り付け、実際に食べられるお菓子を設置しました。
- ⑭ 完成した瞬間、子供達がお菓子に手をのばしほおぼる姿や、家族で記念撮影している姿に、自然と笑顔になりました。そして今までにない達成感と感動が込み上げてきました。
- ⑮ 今回の企業プロジェクトを通して、展示期間中の全体来客数が18万人、達成率119%とお聞きしました。さらに、お菓子の家を設置したことで、昼間のファミリー層の来客数が増えたと評価を頂きました。
- ⑯ パティシエの仕事は、砂糖や粉のように形のないものから、形のあるものを作る仕事です。作業をする過程で、問題点を解決するアイデアやチームワーク力を身に付け、子供たちの夢であり、私たちの夢でもあるお菓子の家を完成することが出来ました。思いを持ち続け、お客様に笑顔を届けるパティシエになります。
- ⑰ ご清聴ありがとうございました。